

臨床医学委員会 老化分科会（第24期・第1回）議事録

1. 日時：平成30年5月18日（金）10:00～12:00
2. 場所：日本学術会議6-A会議室
3. 出席者：秋下雅弘、飯島勝矢、遠藤玉夫、大内尉義、柏原直樹、
林由起子、湯村和子、横出正之、荒井秀典（欠席：小笠原 康悦）
4. 審議事項
 - 1) 遠藤委員より本分科会の経緯について説明があり、大内委員より第23期の資料配付があった。
 - 2) 委員の自己紹介が行われた。
 - 3) 役員を選考が行われた。互選により委員長は大内委員、副委員長は遠藤委員、監事は秋下委員および荒井委員となった。
 - 4) 基本方針が委員長より提示された。第24期中に提言をまとめるため、今年中に再度委員会を開催し、提言の方向性を決定し、来年より提言を作成することとなった。
 - 5) 委員長より配布された日本老年医学会が作成した「健康長寿達成を支える老年医学推進5カ年計画」について荒井委員より説明がなされた。

- 6) 各委員より提言に盛り込む内容について自由討論がなされた。高齢者の生活機能維持を考えた街作り、IoTの活用、健康にならざるを得ない社会の構築、高齢者の権利擁護、高齢者の虐待、高齢者の財産管理、人生の最終段階における透析導入などの課題について、基礎老化研究の推進、自立支援をどう図るか、フレイル・サルコペニアの啓発をいかに進めるか、ポリファーマシー対策、産業化への具体的方策、非がんのエンドオブライフケア、高齢社会対策基本法（平成7年）および高齢社会対策大綱の活用、高齢者保険医療政策、全ライフコースを対象とした老化対策などについて意見が出されたが、これら超高齢社会において課題となっている諸問題に関する研究、人材育成のため、大学における学部横断的な老年学講座（または研究所）の設置を提言に盛り込むべきなどの意見が出された。
- 7) 湯村委員より「65歳からの健康ライフを目指して」という資料の説明がなされた。
- 8) 2019年の老年学会、医学会総会で老化分科会企画のシンポジウムを提案することとなった。次期医学会総会における企画について、超高齢社会の問題を取り上げるよう、齋藤大会長に荒井委員より連絡することとなっ

た。

- 9) 次回の委員会で招致する参考人は議事録を見て検討するとなった。次回の会議は9月頃ともう1回年内に開催することとなった。

(文責 荒井秀典)